

年間授業計画 新様式例

高等学校 令和6年度（1学年用） 教科 工業（インテリア） 科目 インテリア実習

教科：工業（インテリア） 科目：インテリア実習 単位数：3 単位

対象学年組：第1学年 インテリア科 2パート・2サイクル

教科担当者：森田 聡 喜多崎 薫

使用教科書：（ ）

教科 工業（インテリア） の目標：

【知識及び技能】 インテリアの基礎的な知識や技術を習得し、作業工程を把握して安全に作業ができるようにする

【思考力、判断力、表現力等】 自ら課題を発見し、自分の力で解決することができるようにする

【学びに向かう力、人間性等】 インテリアに関する基礎的な知識や技術の向上を目指して、インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に!

科目 インテリア実習 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・インテリアの技術に関する実際の作業に即して総合的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする	・インテリアの技術に関する課題を発見し、インテリアに関わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う	・インテリアに関する技術の向上を目指して自ら学び、インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に取組む態度を養う

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	・用具の使い方についての学習 ・構図・構成についての学習 ・ものの見方・考え方についての学習 の特性を習得できるようにする。	鉛筆デッサンによる 描写表現 ・ 平面構成による デザイン感覚養成 ・ パソコンによる デザイン操作と感覚養成	・用具の使い方・構図・構成に関する基礎的な知識と技能を習得し、ものの見方・考え方について理解できる。	○	○		10
	・基礎的な表現方法を習得できるようにする。 ・講評などを通して、作品を検討し合い、様々な伝達表現について理解できるようにする。		・表現及び伝達に関する基礎的な知識・技能を習得し、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	12
	・用具やパソコンの使い方についての学習 ・構図・構成についての学習 ・ものの見方・考え方についての学習		・用具の使い方・構図・構成に関する基礎的な知識と技能を習得し、ものの見方・考え方について理解できる。	○	○		10
	・基礎的な表現方法の学習 ・講評（伝達表現の基礎）		・表現及び伝達に関する基礎的な知識・技能を習得し、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	10
2 学 期	・アイデアの出し方・考え方についての学習 ・表現方法についての学習	鉛筆デッサンによる 描写表現 ・ 平面構成による デザイン感覚養成 ・ パソコンによる デザイン操作と感覚養成	・アイデアの出し方・考え方に関する基礎的な知識・技能を習得し、表現方法について理解できる。	○	○		10
	・構成表現の効果についての学習 ・構成の仕上げについての学習		・構成表現及び仕上げに関する基礎的な知識・技能を習得し、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	12
	・アイデアの出し方・考え方についての学習 ・表現方法についての学習		・アイデアの出し方・考え方に関する基礎的な知識・技能を習得し、表現方法について理解できる。	○	○		13
	・構成表現の効果についての学習 ・構成の仕上げについての学習		・構成表現及び仕上げに関する基礎的な知識・技能を習得し、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	10
3 学 期	・レタリングと構成についての学習 （平面表現） ・プレゼンテーションについての学習 （造形表現）	文字と平面構成 ・ プレゼンテーション	・レタリングと構成、及びプレゼンテーションに関する基礎的な知識・技能を習得し、表現方法について理解できる。	○	○		10
	・レタリングと構成についての学習 （平面表現） ・プレゼンテーションについての学習 （造形表現）		・レタリングと構成、及びプレゼンテーションに関する基礎的な知識・技能を習得し、表現方法について理解できる。	○	○		10
	・レタリングと構成についての学習 （平面表現）のまとめ ・プレゼンテーションについての学習 （造形表現）のまとめ		・学年のまとめとして、レタリングと構成、及びプレゼンテーションについて基礎的な知識・技能を習得し、インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	10
						合計	117

年間授業計画 新様式例

高等学校 令和6年度（1学年用） 教科 工業（インテリア） 科目 インテリアエレメント生産

教科：工業（インテリア） 科目：インテリアエレメント生産 単位数：2 単位

対象学年組：第1学年 インテリア科

教科担当者：森田 聡

使用教科書：（インテリアエレメント生産）

教科 工業（インテリア） の目標：

【知識及び技能】 インテリアの基礎的な知識や技術を習得し、作業工程を把握して安全に作業ができるようにする

【思考力、判断力、表現力等】 自ら課題を発見し、自分の力で解決することができるようにする

【学びに向かう力、人間性等】 インテリアに関する基礎的な知識や技術の向上を目指して、インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に取

科目 インテリアエレメント生産 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・インテリアエレメントの生産について住生活を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする	・インテリアエレメントの生産に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う	・住生活の変化に対応したインテリアエレメントを生産する力の向上を目指して自ら学び、インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	・インテリア材料の（木材・木質材料・金属・テキスタイル・プラスチック等）の特性を習得できるようにする。	・インテリア材料及加工 ・木材と木質材料 ・木材の性質	・インテリア材料に関する基礎的な知識と技能を習得し、エレメントを生産についての理解度。	○	○		6
	・木材・木質材料の性質および加工法の基礎を習得し、インテリアエレメントの生産ができるようにする。	・木質材料 ・木材加工の基礎	・木材・木質材料の性質および加工法の基礎的な知識・技能を習得し、インテリアエレメントの生産ができる。	○	○		7
	定期考査 ・インテリア材料、及び木材・木質材料の性質および加工法を理解する	・インテリア材料、及び木材・木質材料の性質および加工法について主体的かつ協働的にまとめ、取	・インテリア材料、及び木材・木質材料の性質および加工法についてまとめ、主体的かつ協働的に取り組もうとしている	○	○	○	1
	・人体系家具、準人体系家具、収納系家具等の機能分類と様式、材料、構造、システムを習得できるようにする	インテリアエレメントの構造 ・家具の分類	・人体系家具、準人体系家具、収納系家具の機能分類と様式、材料、構造、システムについての知識・技能を習得し、インテリアエレメントの生産について理解できる。	○	○		8
	・それぞれの様式、材料、構造、システムについて自ら学び、インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に取り組めるようにする。	・椅子ベッド ・机テーブル ・収納家具	・それぞれの様式、材料、構造、システムについて知識・技術を習得し、インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に取り組めるようにする。	○	○	○	6
	定期考査 ・1学期の内容をまとめ、理解できるようにする。	・1学期のまとめについて主体的かつ協働的にまとめ、取り組む	・1学期のまとめについて、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	1
2 学期	・空間部の遮断と開閉・採光・換気・音・熱等についてインテリアの空間での活用と、その役割を習得できるようにする。	・建具の分類 ・内部用建具 ・外部用建具	・空間部の遮断と開閉・採光・換気・音・熱等についての基礎的な知識・技能を習得し、インテリアの空間での活用と役割を理解できる。	○	○		7
	・接着の基礎と木材の接着性に関わる条件を学習し、家具の接着剤の性能と使用法を習得できるようにする。	・接着 ・接着の基礎	・接着の基礎と木材の接着性について知識・技能を習得し、家具制作における接着剤の性能と使用法について理解できる。	○	○		7
	定期考査 ・インテリア空間、及び接着剤の性能と使用法を習得できるようにする。	・インテリアの空間、及び接着剤の性能と使用法について主体的かつ協働的にまとめ、取り組む	・インテリアの空間、及び接着剤の性能と使用法についてまとめ、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	1
	・接着の基礎と木材の接着性に関わる条件を学習し、家具の接着剤の性能と使用法を習得できるようにする。	・接着剤 ・接着用具	・接着の基礎と木材の接着性に関わる条件を学習し、家具の接着剤の性能と使用法を習得できる。	○	○		8
	・表面処理（塗装）の基礎と被塗物の塗装に関わる条件を学習し、家具への塗装適性と使用法を習得できるようにする。	・表面処理 ・塗装 ・塗装の種類	・表面処理（塗装）の基礎と被塗物の塗装に関わる条件を学習し、家具への塗装適性と使用法を習得できる。	○	○		6
	定期考査 ・1・2学期の内容をまとめ、理解できるようにする。	・1・2学期のまとめについて主体的かつ協働的にまとめ、取り組む	・1・2学期のまとめについて、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	1
3 学期	・表面処理（塗装）の基礎と被塗物の塗装に関わる条件を学習し、家具への塗装適性と使用法を習得できるようにする。	・塗装用具 ・塗装以外の表面処理	・表面処理（塗装）の基礎と被塗物の塗装に関わる条件を学習し、家具への塗装適性と使用法を習得できる。	○	○		6
	・木材加工や金属加工の代表的な工作機械の基本を学習し、安全作業等の応用も含め学習できるようにする。	・生産技術 ・木材加工用機械 ・生産計画	・木材加工や金属加工の代表的な工作機械の基本を学習し、安全作業等の応用も含め習得できる。	○	○		8
	・製品の生産に関わる計画、管理、工程、安全等の基礎を習得できるようにする。	・工程管理 ・家具生産の工程	・製品の生産に関わる計画、管理、工程、安全等について知識・技能を習得し、インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	6
	定期考査 ・学年のまとめの内容をまとめ、理解できるようにする。	・学年のまとめについて主体的かつ協働的にまとめ、取り組む	・学年のまとめについて、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	合計 79

高等学校 令和6年度（1学年用） 教科 インテリア 科目 インテリア製図

教科： インテリア 科目： インテリア製図 単位数： 3 単位
 対象学年組： 第 1 学年 インテリア科 2 パート
 教科担当者： (I組： 松本和樹) (I組： 林田千鶴) (組：) (組：)
 使用教科書： (インテリア製図)

教科 インテリア製図 の目標：
 【知識及び技能】インテリアの基礎的な知識や技術を習得し、作業工程を把握して安全に作業ができるようにする
 【思考力、判断力、表現力等】自ら課題を発見し、自分の力で解決することができるようにする
 【学びに向かう力、人間性等】インテリアに関する基礎的な知識や技術の向上を目指して、インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に取り組む

【知識及び技能】	【思考力・判断力・表現力等】	【学びに向かう力、人間力等】
・ 家具寸法、製作法の知識の習得 ・ 製図と表現およびCAD製図の技術的な習得 ・ インテリア製図の理解	図面から必要な情報を読み取り、適当な技術を用いて表現しようとする	・ インテリアに関する技術の向上を目指して自ら学び、インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う

	具体的な指導目標	指導項目・内容	評価基準	知 思 態			配当 時数
				知	思	態	
1 学 期	A単元 線の練習 実線、細線、破線、などの線の意味を学び、使い分けが出来るようになる。インテリア製図に必要な線の濃度で作図ができるようになる。	実線、細線、破線、などの線の意味を学び、使い分けが出来るようになる。	実線、細線、破線、が正しく使われているか。必要な濃度で作図が行えているか。指定通りの図面を作成できたか。	○	○	○	10
	B単元 正32角形 定規やコンパスを利用して、直線、角度、円などを等分割する方法を学ぶ。製図ペンを利用して、インキングのテクニックを学ぶ。	定規やコンパスを利用して、直線、角度、円などを等分割する方法を学ぶ。製図ペンを利用して、インキングのテクニックを学ぶ。	定規やコンパスを正しく使い、正確に直線、円を描き、等分割できるか。製図ペンを適切に用いることができるか。	○	○	○	10
	C単元 着彩の基礎 透明水彩絵具を利用し、インテリア製図における着彩表現の基礎的な技術を習得する。	・ トレーシングの方法 ・ 水彩絵具の具の濃度 ・ 筆の選択 ・ 直線の引き方	透明水彩を用いて丁寧な着彩表現が行えたか 適切な濃度で描画が行えたか 適切な直線が描けているか	○	○	○	10
2 学 期	D単元 製図検定 基礎製図検定の教材を利用し、製図の規則を習得する	基礎製図検定の教材を利用し、製図の規則を学ぶ。	宿題の提出状況及びペーパーテストによる。	○	○	○	15
	E単元 抽斗付本棚 実際の家具製図の寸法や仕様についての作図法を習得する。三面図、平行透視図、有角透視図、CAD、着彩の技法を学ぶ	・ 三面図の作図 ・ 平行透視図の作図 ・ 有角透視図の作図 ・ CAD図面の作成 ・ 図面の着彩	それぞれの図面の指定や規則を守り作図が行えたか。透視図作図法の理解ができたか。明暗を理解して着彩が行えたか。	○	○	○	10
	F単元 センターテーブル より複雑な家具図面について三面図を作成できるようになる。	・ 三面図の作図	図面の指定や規則を守り作図が行えたか。	○	○	○	10
3 学 期	G単元 センターテーブルの着彩 より複雑な家具図面について有角透視法を用いて作図できるようになる。より細密な着彩が行えるようになる。	・ 有角透視図の作図 ・ 図面の着彩	透視図作図法を用いて正確な作図が行えたか。明暗を理解して着彩が行えたか。	○	○	○	10
	H単元 RC造店舗のCAD製図 用紙や画面の設定から、基本的な作図、出力(印刷)方法までの一連の工程を習得する。同時にRC造の構造について学ぶ。	・ RC造 平面図 ・ RC造 断面図	構造を理解し、線の種類の使い分けによってその構造を表現できているかどうか。 CADシステムを理解し、今後の実習に生かしていけるか。	○	○	○	12
	I単元 レタリング 製図に必要なレタリングの技術について理解する。レタリングの技術を習得する。	レタリング検定の教材を利用し、レタリングの規則を学ぶ。	最終的に3級の合格に必要な知識と技術を身につけたかどうか。	○	○	○	15
						合計	102

高等学校 令和6年度（2学年用） 教科 工業（インテリア） 科目 インテリア実習（木材加工 A・B）

教科： 工業（インテリア）

科目： インテリア実習（木材加工 A・B）

単位数： A：2単位 B：3単位（前後期交代で通年では2.5単位となる）

対象学年組： 第 2 学年 インテリア科

教科担当者： (A) 竹野 秀治・森田 聡 (B) 松本 和樹・青柳 俊政

使用教科書： (木材加工系実技教科書)

教科 工業（インテリア） の目標：

【知識及び技能】 インテリアの基礎的な知識や技術を習得し、作業工程を把握して安全に作業ができるようにする

【思考力、判断力、表現力等】 自ら課題を発見し、自分の力で解決することができるようにする

【学びに向かう力、人間性等】 インテリアに関する基礎的な知識や技術の向上を目指して、インテリア産業の発展に主体的かつ協動的に取

科目 インテリア実習（木材加工 A・B） の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・インテリアの技術に関する実際の作業に即して総合的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける	・基礎的な木材加工課題を通して、インテリアの技術に関する課題を発見し、インテリアに関わる者として木材加工技術の進展に対応し解決する力を養う	・インテリアに関する技術の向上を目指して自ら学び、インテリア及び木材加工産業の発展に主体的かつ協動的に取組む態度を養う

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	・基礎的な材料木取り方法についての学習 ・墨付け、及び工具の使用方法についての学習	引き出し付箱の製作	・材料木取り方法と基礎的技術を習得させる。 ・墨付け方法と基礎的技術を習得させる。	○	○		12
	・基礎的な部品加工方法の学習		・部品加工方法と基礎的技術を習得させる。	○	○	○	12
	・基礎的な材料木取り方法についての学習 ・墨付け、及び工具の使用方法についての学習		・材料木取り方法と基礎的技術を習得させる。 ・墨付け方法と基礎的技術を習得させる。	○	○		12
	・基礎的な部品加工方法の学習		・部品加工方法と基礎的技術を習得させる。	○	○	○	12
2 学期	・基礎的な木材加工、及び仮組み方法についての学習 ・基礎的な調整・接着方法についての学習 ・基礎的な工具管理についての学習	引き出し付箱の製作 ・ 箱づくりのための 工具管理	・本体仮組み方法と基礎的技術を習得させる。 ・調整・接着方法と基礎的技術を習得させる。 ・工具管理の基礎的技術を習得させる。	○	○		15
	・仕上げ、本体組立てについての学習 ・基礎的な引き出しの加工・調整・接着方法についての学習		・仕上げ、本体完成について習得させる。 ・引き出し加工・調整・接着方法と基礎的技術を習得させる。	○	○	○	15
	・基礎的な木材加工、及び仮組み方法についての学習 ・基礎的な調整・接着方法についての学習 ・基礎的な工具管理についての学習		・本体仮組み方法と基礎的技術を習得させる。 ・調整・接着方法と基礎的技術を習得させる。 ・工具管理の基礎的技術を習得させる。	○	○		15
	・仕上げ、本体組立てについての学習 ・基礎的な引き出しの加工・調整・接着方法についての学習		・仕上げ、本体完成について習得させる。 ・引き出し加工・調整・接着方法と基礎的技術を習得させる。	○	○	○	15
3 学期	・基礎的な素地調整・着色についての学習	引き出しの塗装	・素地調整・着色の基礎的技術を習得させる。	○	○		13
	・基礎的な下塗り・中塗りについての学習		・下塗り・中塗りの基礎的技術を習得させる。	○	○		13
	・基礎的な仕上げ塗りに関する学習 ・レポートとして課題制作のまとめの学習		・仕上げ塗りの基礎的技術を習得させる。 ・レポートを課題としてまとめの学習を習得させる。	○	○	○	10 合計 144

高等学校 令和6年度（1学年用） 教科 工業（インテリア） 科目 工業情報数理

教科：工業（インテリア） 科目：工業情報数理 単位数：2 単位 2単位（前期・後期2パート）

対象学年組：第2学年 インテリア科

教科担当者：（1組：松本和樹）（組： ）（組： ）（組： ）（組： ）

使用教科書：（工業情報数理 ）

教科 工業（インテリア） の目標：

【知識及び技能】工業の各分野における情報技術の進展と情報の意義や役割及び数理処理の理論を理解する。

【思考力、判断力、表現力等】情報化の進展が産業社会に与える影響に関する課題を発見し、工業技術の進展に対応する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】工業の各分野において情報技術及び情報手段や数理処理活用する力の向上を目指す。

科目 工業情報数理 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・インテリアの伝達手段として使用するコンピューターソフトの操作方法を理解する ・店舗設計における設計の基本知識を理解する ・模型製作に必要な技術、知識を習得する	・店舗設計における設計の基礎知識を理解する ・商業形態を理解し空間設計をおこない、設計図、模型等で表現する	・インテリアや空間設計に関する技術の向上を目指して自ら学び、インテリア産業の発展に主体的かつ協動的に取組む態度を養う

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	基礎知識 ・店舗設計に必要な空間、設備等を把握する。 ・人体寸法について理解する。	・スケール感、動作空間・単位空間、人体寸法について理解する。 ・ホワイトモデルの位置づけを理解する。	・設計条件を正しく理解し、商業店舗の概要の決定をおこなっているか。 ・設計の店舗設定を詳細かつ具体的におこなうことができたか。	○	○	○	8
	空間設計 ・商業店舗の設計基礎知識をいかし、アイデアを形にする技術を身に着ける。	・設計の工程を理解する。 ・RC造を想定した店舗を計画する。 ・もとに、エスキスを繰り返し設計プランを決定する。	・店舗設定を踏まえた上で、ラフスケッチや内観外観パースをかくことができたか。 ・エスキスを繰り返しおこない、設計プランの検討を重ね、最終的に設計プランを決定することができたか	○	○	○	8
	図面作成 ・CADソフトを使用して、商業店舗の設計図を作成することができる。	・CADソフトを使用して商業店舗の平面図を作成する。 ・CADソフトを使用して商業店舗の立面図を作成する。	・CADソフトの使い方を理解し、平面図、立面図を正確に作成することができたか。	○	○	○	6
	模型製作 ・工程やスケール感、空間理解を深めるとともに、建築模型の製作技術を習得する。	・建築模型製作の工程を理解する。 ・縮尺1/50の模型を製作する。	・建築模型の作成方法を身に着け、1/50の模型を製作することができたか。 ・計画した店舗をより詳細に表現できたか。 ・空間を把握し、スケールにあった模型を製作できているか。	○	○	○	6
2 学 期	模型撮影・プレゼンボード作成 ・製作した模型を、設計主旨が第三者に伝わりやすいような写真を撮影できるようにする。	・建築模型製作の撮影をおこなう。 ・プレゼンボードを作成する。	・設計主旨が伝わる写真を撮影することができたか。 ・撮影写真を使用し、設計主旨が伝わるプレゼンボードを作成できているか。	○	○	○	6
	基礎知識 ・店舗設計に必要な空間、設備等を把握する。 ・人体寸法について理解する。	・スケール感、動作空間・単位空間、人体寸法について理解する。 ・ホワイトモデルの位置づけを理解する。	・設計条件を正しく理解し、商業店舗の概要の決定をおこなっているか。 ・設計の店舗設定を詳細かつ具体的におこなうことができたか。	○	○	○	8
	空間設計 ・商業店舗の設計基礎知識をいかし、アイデアを形にする技術を身に着ける。	・設計の工程を理解する。 ・RC造を想定した店舗を計画する。 ・もとに、エスキスを繰り返し設計プランを決定する。	・店舗設定を踏まえた上で、ラフスケッチや内観外観パースをかくことができたか。 ・エスキスを繰り返しおこない、設計プランの検討を重ね、最終的に設計プランを決定することができたか	○	○	○	8
	図面作成 ・CADソフトを使用して、商業店舗の設計図を作成することができる。	・CADソフトを使用して商業店舗の平面図を作成する。 ・CADソフトを使用して商業店舗の立面図を作成する。	・CADソフトの使い方を理解し、平面図、立面図を正確に作成することができたか。	○	○	○	6

高等学校 令和5年度(2学年用) 教科 工業(インテリア) 科目 工業情報数理

教科: 工業(インテリア) 科目: 工業情報数理 単位数: 2 単位 2単位(前期・後期2パート)

対象学年組: 第2学年 インテリア科

教科担当者: (I組: 斎藤俊博) (組:) (組:) (組:) (組:) (組:)

使用教科書: (工業情報数理)

教科 工業(インテリア) の目標:

【知識及び技能】工業の各分野における情報技術の進展と情報の意義や役割及び数値処理の理論を理解する。

【思考力、判断力、表現力等】情報化の進展が産業社会に与える影響に関する課題を発見し、工業技術の進展に対応する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】工業の各分野において情報技術及び情報手段や数値処理活用する力の向上を目指す。

科目 工業情報数理 の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
工業の各分野における情報技術の進展と情報の意義や役割及び数値処理の理論を理解するとともに工業に携わる者として様々な状況に対応する技術を身に付ける。	情報化の進展が産業社会に与える影響に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応する力を養う。	工業の各分野において情報技術及び情報手段や数値処理活用する力の向上を目指し、自ら学ぶ態度や工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を育てる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	課題① 3次元コンピューターグラフィックス(3DCG)の基礎知識と概要 3DCGはどのようなものを理解し、基本的な操作を学ぶ。	課題① 小規模な建物を題材として3DCGソフトの操作法を学ぶ ・3DCGとは何か ・3DCGソフトForm-Zの操作法	3DCGはどのようなものを理解し、基本的な操作を習得したかどうか。	○	○	○	6
	課題② コンセプトを立案し、その目的に合った小空間をデザインする。	課題② 小空間のデザイン 自らの設定したコンセプトに従い小空間(高校生の住まい)をデザインする。 ・エスキース ・単位空間の考え方	コンセプトを立案し、その目的に合った小空間をデザインできたかどうか。	○	○	○	10
	課題② デザインを3DCGを用いて具現化する。ものを表現するために質感や照明の設定の仕方を理解する。	課題② 決定したデザインを3DCGで具現化する。 ・3DCGによるモデリング ・質感の表現 ・照明の設定	デザインを3DCGを用いて具現化する。ものを表現するために質感や照明の設定の仕方を理解しているかどうか。	○	○	○	8
	課題② モデリングデータをもとに、レンダリングをすることで具体的な画像を得る。またプレゼンテーションをするために必要な手続きを得る。	課題② モデリングしたデータを元に、プレゼンボードを作成、第三者にプレゼンテーションする。 ・レンダリングによる画像生成 ・Illustratorによるボード作成 ・プレゼンテーション	モデリングデータをもとに、レンダリングをすることで具体的な画像を得られたか。プレゼンテーションをするために必要な手続きができたかどうか。	○	○	○	7
2 学 期	課題③ 小住宅をデザインすることで、住宅の間取りを考えるうえで必要なことを学ぶ。また、室内空間をコーディネートする上で必要なことを学ぶ。	課題③ ・小住宅の設計について ・マイホームデザイナーの操作法 ・住宅の間取りの考え方について ・インテリアコーディネート ・プレゼンテーションボードの制作とプレゼンテーション	小住宅をデザインすることで、住宅の間取りを考えるうえで必要なことを学び、また、室内空間をコーディネートする上で必要なことを学んだかどうか。	○	○	○	6
	課題① 3次元コンピューターグラフィックス(3DCG)の基礎知識と概要 3DCGはどのようなものを理解し、基本的な操作を学ぶ。	課題① 小規模な建物を題材として3DCGソフトの操作法を学ぶ ・3DCGとは何か ・3DCGソフトForm-Zの操作法	3DCGはどのようなものを理解し、基本的な操作を習得したかどうか。	○	○	○	6
	課題② コンセプトを立案し、その目的に合った小空間をデザインする。	課題② 小空間のデザイン 自らの設定したコンセプトに従い小空間(高校生の住まい)をデザインする。 ・エスキース ・単位空間の考え方	コンセプトを立案し、その目的に合った小空間をデザインできたかどうか。	○	○	○	10
	課題② デザインを3DCGを用いて具現化する。ものを表現するために質感や照明の設定の仕方を理解する。	課題② 決定したデザインを3DCGで具現化する。 ・3DCGによるモデリング ・質感の表現 ・照明の設定	デザインを3DCGを用いて具現化する。ものを表現するために質感や照明の設定の仕方を理解しているかどうか。	○	○	○	8
3 学 期	課題② モデリングデータをもとに、レンダリングをすることで具体的な画像を得る。またプレゼンテーションをするために必要な手続きを得る。	課題② モデリングしたデータを元に、プレゼンボードを作成、第三者にプレゼンテーションする。 ・レンダリングによる画像生成 ・Illustratorによるボード作成 ・プレゼンテーション	モデリングデータをもとに、レンダリングをすることで具体的な画像を得られたか。プレゼンテーションをするために必要な手続きができたかどうか。	○	○	○	7
	課題③ 小住宅をデザインすることで、住宅の間取りを考えるうえで必要なことを学ぶ。また、室内空間をコーディネートする上で必要なことを学ぶ。	課題③ ・小住宅の設計について ・マイホームデザイナーの操作法 ・住宅の間取りの考え方について ・インテリアコーディネート ・プレゼンテーションボードの制作とプレゼンテーション	小住宅をデザインすることで、住宅の間取りを考えるうえで必要なことを学び、また、室内空間をコーディネートする上で必要なことを学んだかどうか。	○	○	○	6
	課題④ アルゴリズムとプログラミングの基礎をHTML言語を通して実践的に学ぶ。同時にウェブサイトの構成について理解する。	課題④ ・HTML言語の概要 基本操作 ・課題③を題材にしてWebページの作成し、プレゼンテーションを行う。	自ら作成した作品をWeb形式にまとめることで効果的な表現ができたかどうか。HTML言語の仕組みと構造について理解できたかどうか。	○	○	○	8
	合計						

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 工業（インテリア） 科目 インテリア装備

教科： 工業（インテリア） 科目： インテリア装備 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 インテリア科

教科担当者： 斎藤 俊博

使用教科書： （ インテリア装備 ）

教科 工業（インテリア） の目標：

【知識及び技能】 インテリアの基礎的な知識や技術を習得し、作業工程を把握して安全に作業ができるようにする

【思考力、判断力、表現力等】 自ら課題を発見し、自分の力で解決することができるようにする

【学びに向かう力、人間性等】 インテリアに関する基礎的な知識や技術の向上を目指して、インテリア産業の発展に主体的かつ協動的に取

科目 インテリア装備 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
インテリア装備について室内空間を構成する各部位をを踏まえて住生活や工業生産と関連付けて理解するとともに、インテリア空間づくりにおける様々な状況に対応できる技術を身に付ける。	インテリアを構成する各部位やエレメントの材料、構造、施工に着目して、インテリア装備に関する課題を見だし、科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。	インテリア装備の建築物へ施工する力の向上を目指し、生活の変化にともなう建築物やインテリアの立体的な構造、多様なインテリア材料と施工について自ら学ぶ態度や、インテリア産業の発展に主体的にかつ協動的に取り組む態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
				○	○	○	
1 学期	・建築物の一般的な構造について構造技術の発達や構造の種類及び構成を理解する。	インテリア装備の概要について ・構造技術の発達 ・構造の種類と構成	・建築物の一般的な構造について構造技術の発達や構造の種類及び構成を理解しているかどうか。	○	○		6
	・建築物の構造のうち、木構造について各部位の構造・構法・材料・加工法について理解する。	木構造について ・地業と基礎 ・軸組 ・床組 ・小屋組 ・枠組壁構法	・建築物の構造のうち、木構造について各部位の構造・構法・材料・加工法について理解しているかどうか。	○	○		7
	定期考査 ・建築構造の種類と構成 ・木構造の各部位の構成	建築構造の種類と構成、木構造の各部位の構成についての理解を主体的かつ協動的に取り組む	建築構造の種類と構成、木構造の各部位の構成についての理解を主体的かつ協動的に取り組めたかどうか。	○	○	○	1
	・建築物の構造のうち、鉄骨構造について各部位の構造・構法・材料・加工法について理解する。	鉄骨構造について ・鋼材の接合 ・基礎 ・骨組 ・耐火被膜	・建築物の構造のうち、鉄骨構造について各部位の構造・構法・材料・加工法について理解しているかどうか。	○	○		8
	・建築物の構造のうち、鉄筋コンクリート構造について各部位の構造・構法・材料・加工法について理解する。	鉄筋コンクリート構造について ・鉄筋コンクリートの構造の特徴 ・材料と施工 ・主体構造 ・鉄筋鉄骨コンクリート構造	・建築物の構造のうち、鉄筋コンクリート構造について各部位の構造・構法・材料・加工法について理解しているかどうか。	○	○	○	6
	定期考査 ・1学期のまとめ	・1学期のまとめについて主体的かつ協動的にまとめ、取り組む	・1学期のまとめについて、主体的かつ協動的に取り組もうとしているか。	○	○	○	1
2 学期	インテリアの施工において、施工の概要や床の下地、各種仕上げについて構造・構法・材料・加工法を含めて理解する。	インテリアの施工について 施工の概要(躯体・下地・仕上げ) 床の下地と仕上げ ・下地構法 ・張り仕上げ・塗り仕上げ・敷き仕上げ	インテリアの施工において、施工の概要や床の下地、各種仕上げについて構造・構法・材料・加工法を含めて理解しているかどうか。	○	○		8
	インテリアの施工において、壁の下地、各種仕上げについて構造・構法・材料・加工法を含めて理解する。	壁の下地と仕上げについて ・下地構法 ・張り仕上げ ・塗り仕上げ	インテリアの施工において、壁の下地、各種仕上げについて構造・構法・材料・加工法を含めて理解しているかどうか。	○	○		6
	定期考査 ・インテリアの空間、及び接着剤の性能と使用法	・インテリアの空間、及び接着剤の性能と使用法について主体的かつ協動的にまとめ、取り組む	・インテリアの空間、及び接着剤の性能と使用法についてまとめ、主体的かつ協動的に取り組もうとしている。	○	○	○	1
	インテリアの施工において、天井の種類、各種仕上げについて構造・構法・材料・加工法を含めて理解する。	天井の下地と仕上げについて ・吊り天井 ・直天井 ・システム天井	インテリアの施工において、天井の種類、各種仕上げについて構造・構法・材料・加工法を含めて理解しているかどうか。	○	○		8
	インテリアの施工において、造作の種類、各種仕上げについて構造・構法・材料・加工法を含めて理解する。	造作について ・和風 ・洋風	インテリアの施工において、造作の種類、各種仕上げについて構造・構法・材料・加工法を含めて理解しているかどうか。	○	○		6
定期考査 ・1・2学期のまとめ	・1・2学期のまとめについて主体的かつ協動的にまとめ、取り組む	・1・2学期のまとめについて、主体的かつ協動的に取り組もうとしているか。	○	○	○	1	
3 学期	インテリアの施工において、開口部の構造を構法・材料・加工法を含めて理解する。	開口部について ・木構造 ・鉄筋コンクリート構造 ・鋼構造	インテリアの施工において、開口部の構造を構法・材料・加工法を含めて理解しているかどうか。	○	○		6
	インテリアの施工において、階段の構造を構法・材料・加工法を含めて理解する。	階段について ・木製 ・金属製	インテリアの施工において、階段の構造を構法・材料・加工法を含めて理解しているかどうか。	○	○		8
	インテリアの施工において、施工管理を施工管理・工程管理・品質管理に分けて理解する。	施工管理について ・施工管理 ・工程管理 ・品質管理	インテリアの施工において、施工管理を施工管理・工程管理・品質管理に分けて理解しているかどうか。	○	○	○	5
	定期考査 ・学年のまとめ	・学年のまとめについて主体的かつ協動的にまとめ、取り組む	・学年のまとめについて、主体的かつ協動的に取り組もうとしているか。	○	○	○	合計 78

高等学校 令和6年度（2学年用） 教科 工業（インテリア） 科目 福祉住環境A

教科： 工業（インテリア）

科目： 福祉住環境A

単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 組～ 組

教科担当者：（I組：川合まさ子）（ 組： ）（ 組： ）（ 組： ）（ 組： ）

使用教科書：（ ）

教科 工業（インテリア） の目標：

【知識及び技能】インテリアの基礎的な知識や技術を習得し、作業工程を把握して安全に作業ができるようにする

【思考力、判断力、表現力等】自ら課題を発見し、自分の力で解決することができるようにする

【学びに向かう力、人間性等】インテリアに関する基礎的な知識や技術の向上を目指して、インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に取

科目 福祉住環境A の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
福祉住環境コーディネーター3級に合格できる知識を習得する。高齢者や障害者の介護の問題を把握し、住環境や社会、福祉を通じて解決する知識を身につける。	高齢者・障害者への視点を持ちながら住宅などの設計に応用できる力を身につける。	インテリアに関する技術の向上を目指して自ら学び、インテリアに関わる分野を総合的に把握しユニバーサル社会実現のための知識を主体的かつ協働的に取り組む態度を養う

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A単元 暮らしやすい生活環境をめざして	<ul style="list-style-type: none"> 少子高齢社会と共生社会への道 福祉住環境整備の重要性、必要性 在宅生活の維持とケアサービス ・出題頻度説明 ・要点確認 ・過去問題に取り組みせ、解説をおこなう	<ul style="list-style-type: none"> テキストや過去問題に主体的に取り組むことができているか。 過去問題の結果や、要点の確認結果から、項目の内容を理解できているか。 	○	○	○	8
	B単元 健康と自立を目指して	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の健康と自立 障害者が生活の不自由を克服する道 ・出題頻度説明 ・要点確認 ・過去問題に取り組みせ、解説をおこなう	<ul style="list-style-type: none"> テキストや過去問題に主体的に取り組むことができているか。 過去問題の結果や、要点の確認結果から、項目の内容を理解できているか。 	○	○	○	8
	C単元 バリアフリーとユニバーサルデザイン	<ul style="list-style-type: none"> バリアフリーとユニバーサルデザインを考える 生活を支えるさまざまな用具 ・出題頻度説明 ・要点確認 ・過去問題に取り組みせ、解説をおこなう	<ul style="list-style-type: none"> テキストや過去問題に主体的に取り組むことができているか。 過去問題の結果や、要点の確認結果から、項目の内容を理解できているか。 	○	○	○	6
	D単元 安全・安心・快適な住まい	<ul style="list-style-type: none"> 住まいの整備のための基本技術 生活行為別に見る安全、安心、快適な住まい ・出題頻度説明 ・要点確認 ・過去問題に取り組みせ、解説をおこなう	<ul style="list-style-type: none"> テキストや過去問題に主体的に取り組むことができているか。 過去問題の結果や、要点の確認結果から、項目の内容を理解できているか。 	○	○	○	10
2 学 期	E単元 安心できる住生活とまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ライフスタイルの多様化と住まい 安心できる住生活について学習する。 安心して暮らせるまちづくり 地域で取り組む福祉のまちづくりの実例を学習する。 ・出題頻度説明・要点確認	<ul style="list-style-type: none"> テキストや過去問題に主体的に取り組むことができているか。 過去問題の結果や、要点の確認結果から、項目の内容を理解できているか。 	○	○	○	8
	F単元 福祉住環境演習	<ul style="list-style-type: none"> 福祉住環境コーディネーター検定試験事前指導 模擬問題演習（問題と解説） ・検定申込の確認をおこなう ・実際の試験に近い問題に取り組みせ、解説をおこなう	<ul style="list-style-type: none"> テキストや過去問題に主体的に取り組むことができているか。 模擬問題演習の結果から、福祉住環境コーディネーター検定試験の内容の理解しているか。 	○	○	○	10
	G単元 福祉住環境演習（調べ学習）	<ul style="list-style-type: none"> 検定試験後の自己採点 福祉用具の種類と、介護保険で利用できるサービスを、ペア学習で調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 福祉住環境コーディネーター検定試験で学習した、福祉用具の種類や介護保険で利用できるサービスを理解し、具体例をあげることができるか。調べ学習に主体的かつ協働的に取り組もうとしているか。 	○	○	○	8
3	H単元 福祉住環境演習（調べ学習・発表）	<ul style="list-style-type: none"> 福祉用具の種類と、介護保険で利用できるサービスを、ペア学習で調べる。 プレゼンテーション形式にまとめ、発表リハーサルと本番まで一貫して行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 福祉住環境コーディネーター検定試験に関する知識を習得し、福祉用具の種類と、介護保険で利用できるサービスを具体例をプレゼンテーションできているか。プレゼンテーションに関する技能をいかし、主体的かつ協働的に取り組もうとしているか。 	○	○	○	6
	I単元 福祉住環境演習	<ul style="list-style-type: none"> 段差と転倒について住まいの整備のための基本技術を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全・安心・快適な住まいについての知識を習得することができるか。 	○	○	○	8

高等学校 令和6年度(3学年用) 教科 工業(インテリア) 科目

教科: 工業(インテリア) 科目: 課題研究 店舗設計(3DCG)

単位数: 4 単位

対象学年組: 第 3 学年 インテリア科

教科担当者: 斎藤俊博

使用教科書: ()

教科 工業(インテリア)

【知識及び技能】

【思考力、判断力、表現力等】

【学びに向かう力、人間性等】

科目 課題研究 店舗設計

の目標:

インテリアの基礎的な知識や技術を習得し、作業工程を把握して安全に作業ができるようになる
自ら課題を発見し、自分の力で解決することができるようにする

インテリアに関する基礎的な知識や技術の向上を目指して、インテリア産業の発展に主体的かつ協動的に取り組む

の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・店舗(飲食店)の計画、設計に関する知識を理解し、技術を習得する。 ・3次元CGの仕組みや技術を理解し、各種のソフトウェアを使いこなす知識と技術を身につける。	・市場調査・コンセプト立案に基づくデザイン・設計などの総合的な判断・表現を習得する。 ・3次元CGやその編集技術を用いて商業空間を第3者に表現する技術を理解し、身に付ける。	提案を提示する上での確かなプレゼンテーションが行われ、課題解決になっているか。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	店舗(飲食店)の設計に関する基礎知識を学ぶ 立地・条件設定 コンセプト立案	店舗(飲食店)の設計のポイント 用途地域や周辺環境について 建築物の構造についての基礎知識 立地や客層の設定について	・店舗の設計の基礎知識を身につけたか ・課題設定に対する視点が明確であり、コンセプトや設計図面に反映されているか。	○	○		12
	配置・レイアウトに関する基礎知識を学ぶ 平面のエスキース 外観のスケッチ CADの操作法	配置計画のポイント 店舗内のゾーニングについて CADソフト(Vectorworks)の使用法	・設定された敷地に立地条件が生かされた配置計画がされているか ・コンセプトが反映された合理的な平面計画が行われているか	○	○		16
	平面計画の詳細を学ぶ 厨房の計画 店内の配置 中間プレゼンテーション①	店舗内の動線計画 厨房の構成・配置 座席のレイアウト プレゼンテーションソフト使い方	・業態やコンセプトに沿った適切な動線や厨房の配置がされているか ・効果的なプレゼンテーションができたか 反応はどうであったか	○	○	○	16
	3DCGによる躯体のモデリングを学ぶ 什器のデザイン・設計	3Dデータに関する基礎知識 3Dモデリングソフト(Form-Z)の使用法 各種店舗什器の基礎知識	・各種3Dデータの違いや用途を理解したか ・効率的なデータの作成ができているか ・各種什器の違いについて理解したか	○	○		16
2 学期	3DCGの質感設定を学ぶ	モデリングした3Dデータをレンダリングソフトに取り入れ、色・反射・透明度などを考慮しながら質感の設定を行う	・3Dデータの構造について理解したか ・データのインポート方法を理解したか ・質感を決定する要素について理解したか ・必要とする質感が表現が実現できたか	○	○		16
	3DCGの光源設定を学ぶ	質感を設定した3Dデータに太陽光・環境光・室内照明などの各種光源を設定する	・光源設定の仕組みについて理解したか ・光源の設定やインポート方法を理解したか ・環境を決定する要素について理解したか ・必要とする光源が表現が実現できたか		○	○	20
	3DCG空間の環境設定を学ぶ	質感や光源を設定した3Dデータに、置かれた条件を考慮しながら背景を設定する	・3Dにおける環境について理解したか ・環境データの作成方法を理解したか ・必要とする背景が表現が実現できたか		○	○	20
	映像の動画の編集技術を学ぶ プレゼンテーションボードの作成	ウォークスルーアニメーションを制作、効果的な構成を考えながらPC上で映像編集を行う	・映像の編集技術の基礎を理解したか ・設計意図を表現する構成にできたか ・必要とする映像を得ることができたか	○	○		12
3 学期	プレゼンテーション用スライドの作成	プレゼンテーションソフトを利用しプレゼンテーションの視覚的効果を学ぶ	・テーマ・コンセプトなどを分かりやすくかつ正確に他者に伝達することができたか。	○	○		16
	プレゼンテーション準備	効果的な展示計画・プレゼンテーション方法を学ぶ	・テーマ・コンセプトなどを分かりやすくかつ正確に他者に伝達する為の効果的なプレゼンテーションが理解できているか。		○	○	8
	プレゼンテーション	卒展において店舗設計班として店舗の提案を行う そのための設営方法や展示計画を行う	・テーマ・コンセプトなどを分かりやすくかつ正確に他者に伝達する為の効果的なプレゼンテーションができるか。 ・卒業展示の方法など主体的に検討できているか。	○	○	○	4
						合計	156

高等学校 令和6年度(3学年用) 教科

工業(インテリア) 科目 インテリア実習B(デッサン)

教科: 工業(インテリア) 科目: インテリア実習B(デッサン)

単位数: 3 単位 (4パート・2サイクル)

対象学年組: 第 3 学年 インテリア科

教科担当者: 森田 聡

使用教科書: ()

教科 工業(インテリア)

の目標:

【知識及び技能】

インテリアの基礎的な知識や技術を習得し、作業工程を把握して安全に作業ができるようにする

【思考力、判断力、表現力等】

自ら課題を発見し、自分の力で解決することができるようにする

【学びに向かう力、人間性等】

インテリアに関する基礎的な知識や技術の向上を目指して、インテリア産業の発展に主体的かつ協動的に取り組む

科目 インテリア実習B(デッサン)

の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
デッサンに関する描写手法、構図・形態・空間、材質、陰影等の表現における知識と技術を理解し、習得する。	対象物の捉え方について工夫して思考し、他者への伝達などを総合的に判断し、表現する力を習得する。	描写表現についての関心、及び講評等を含め主体的かつ協動的に取組む態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期 〈1 サイクル〉 デッサン演習を行い、より発展的に対象物を捉える見方・考え方を理解し、描写表現を習得させる。	・石膏像や石膏製幾何形体を対象物として、構図・形態感・陰影・材質感などを踏まえて、より発展的に対象物を捉える見方・考え方を学ぶ。同時に美術大学進学などの進路対策について対応する。	・石膏像や石膏製幾何形体などを、構図・形態感・陰影・材質感などを踏まえて描くことにより、より発展的に対象物を捉える考え方、及び技術の習得度。	○	○		21
	・木材・金属・布・ガラスなどを素材に持つ身の回りの日用品などを対象物として、構図・形態感・陰影・材質感などを踏まえて、より発展的に対象物を捉える見方・考え方を学ぶ。同時に美術大学進学などの進路対策について対応する。	・木材・金属・布・ガラスなどを素材に持つ身の回りの日用品などを、構図・形態感・陰影・材質感などを踏まえて描くことにより、より発展的に対象物を捉える考え方、及び技術の習得度。	○	○	○	21
2 学期 〈2 サイクル〉 デッサン演習を行い、より発展的に対象物を捉える見方・考え方を理解し、描写表現を習得させる。	・石膏像や石膏製幾何形体を対象物として、構図・形態感・陰影・材質感などを踏まえて、より発展的に対象物を捉える見方・考え方を学ぶ。同時に美術大学進学などの進路対策について対応する。	・石膏像や石膏製幾何形体などを、構図・形態感・陰影・材質感などを踏まえて描くことにより、より発展的に対象物を捉える考え方、及び技術の習得度。	○	○		23
	・木材・金属・布・ガラスなどを素材に持つ身の回りの日用品などを対象物として、構図・形態感・陰影・材質感などを踏まえて、より発展的に対象物を捉える見方・考え方を学ぶ。同時に美術大学進学などの進路対策について対応する。	・木材・金属・布・ガラスなどを素材に持つ身の回りの日用品などを、構図・形態感・陰影・材質感などを踏まえて描くことにより、より発展的に対象物を捉える考え方、及び技術の習得度。	○	○	○	22
3 学期 デッサン課題におけるプレゼンテーション、及び講評を行い、他者への伝達方法と客観的に作品を捉える見方・考え方を理解、習得させる。	・デッサン課題におけるテーマ・コンセプトなどをまとめたプレゼンテーションを行い、分かりやす的確に他者に伝達する表現方法を学ぶ。同時に美術大学進学などの進路対策について対応する。	・デッサン課題におけるテーマ・コンセプトなどをまとめたプレゼンテーションを行い、分かりやす的確に他者に伝達する表現方法の習得度。	○	○	○	21
	・デッサン課題におけるお互いの作品の講評を行い、分かりやす的確に他者に伝達する表現方法を学ぶ。同時に美術大学進学などの進路対策について対応する。	・デッサン課題におけるお互いの作品の講評を行い、分かりやす的確に他者に伝達する表現方法の習得度。	○	○	○	9
						合計
						117

高等学校 令和6年度（3学年用） 教科 工業（インテリア） 科目 デザイン史

教科：工業（インテリア） 科目：デザイン史 単位数：2 単位

対象学年組：第3学年 インテリア科

教科担当：喜多崎 薫

使用教科書：（高等学校用 History of Design デザイン史（文部科学省））

教科 工業（インテリア） の目標：

【知識及び技能】インテリアの基礎的な知識や技術を習得し、作業工程を把握して安全に作業できるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】色彩の基礎知識を環境に生かすための創意工夫なイメージした世界観から発想や構想を検討できる。

【学びに向かう力、人間性等】課題の目的を理解した上で全工程をイメージし、よりよい結果を想像し計画的に制作できる。

科目 デザイン史 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
時代や文化背景とデザインの発生や進化の関係を理解できるとともに、現代に影響を与えるデザイナーや建築家、作品などの知識を得ることができる。	デザインが成立する複雑な例を学習することで、自らがデザインを形成する能力を身に付ける。デザインの成功例が必ずしも次の時代の成功とはならない事実を知ること、これからのデザインを広範囲に考えることができる。	社会と関連するデザインの歴史を学ぶことで、自らの学びの方向が他者とのように関わるかを考え、多様性の時代に共感できるようになる。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期 定期考査（中間）	01. デザイン史を学ぶということ 社会とデザインの関わり 02. 大量生産とデザイン 産業革命とアーツ・アンド・クラフツ運動 03. 装飾とデザイン アール・ヌーヴォー 04. アカデミズムへの反発 ウィーン分離派 05. 近代デザインの意識 シカゴ派、キュビズム、ダダ 06. 戦争とデザイン ロシア構成主義 07. モダンデザインへの挑戦 ドイツ工作連盟とバウハウス 08. スタイルングのデザイン アール・デコとストリウムラ	【知識及び技能】 社会とデザインの関わり、デザインの発生理由が理解できている。 デザインの形状としての特徴が理解できている。	○	○	○	8
		【思考力、判断力、表現力等】 過去と現代との相違点や共通点を柔軟に捉え、デザイン形成を考えることができる。	○	○	○	8
		【学びに向かう力、人間性等】 過去の作品を通して、デザイナー、建築家への興味・関心を持ち、理解を深めている。	○	○	○	8
		定期考査（期末）				
2 学期 定期考査（中間）	09. 現代様式の確立 インターナショナルスタイルと オーガニックデザイン 10. 現代生活と機能のデザイン スカンジナビアンモダン 11. 芸術のはじまり 原始のデザイン 12. 古代文明のデザイン① エジプト、メソポタミア 13. 古代文明のデザイン② ギリシャ 14. 都市国家と発明 ローマ 15. 宗教建築の芽生え ビザンチンとイスラム 16. キリスト教のデザイン ロマネスクとゴシック 17. 古典への回帰 ルネッサンスとロマネスク	【知識及び技能】 社会とデザインの関わり、デザインの発生理由が理解できている。 デザインの形状としての特徴が理解できている。	○	○	○	8
		【思考力、判断力、表現力等】 過去と現代との相違点や共通点を柔軟に捉え、デザイン形成を考えることができる。	○	○	○	10
		【学びに向かう力、人間性等】 過去の作品を通して、デザイナー、建築家への興味・関心を持ち、理解を深めている。	○	○	○	10
		定期考査（期末）				
3 学期 定期考査（学年末）	19. 権力とデザイン バロックとロココ 20. 新しい時代へ 新古典主義 20. オリンピックとデザイン 21. デザインの多様化	【知識及び技能】 デザインの歴史が総合的に理解できている。 【思考力、判断力、表現力等】 デザイン発生の理由が包括的に想像できる。	○	○	○	18
		【学びに向かう力、人間性等】 デザインの成立に関心を持ち、理解を深めている。				合計 78

年間授業計画 新様式例

高等学校 令和6年度（3学年用）教科 工業（インテリア） 科目

教科：工業（インテリア） 科目：インテリア技術C（木曜選択） 単位数：2 単位

対象学年組：第3学年 インテリア科

教科担当者：林田 千鶴

使用教科書：（ ）

教科 工業（インテリア） の目標：

【知識及び技能】インテリアの基礎的な知識や技術を習得し、作業工程を把握して安全に作業ができるようにする

【思考力、判断力、表現力等】自ら課題を発見し、自分の力で解決することができるようにする

【学びに向かう力、人間性等】インテリアに関する基礎的な知識や技術の向上を目指して、インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に取り組む

科目 インテリア技術C（木曜選択） の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
設計競技テーマの社会背景や課題に関する知識を理解し、問題点とその解決方法を考察することができる。 設計競技で求められる表現方法でプレゼンテーションを作成する技術を養う。	アイディアの構築からプレゼンテーションまで、一連のデザインワークを自己管理し、表現することができる力を身に着ける。	社会背景へ関心を持ち、デザインワークと関連付け主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	デザインコンペ参加 A	<ul style="list-style-type: none"> テーマにもとづき問題点を探りコンセプトを立案する。 コンセプトにもとづきデザインによる問題解決方法を探る。 具体的なデザイン提案を作成する。 コンセプトの重要性を知り、デザインをブラッシュアップする。 効果的な提案方法を見つけ、デザイン素材を製作する。 プレゼンテーションツールを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 設計競技締め切りから逆算したスケジュールを設定し今後の行動指針とできる。 設計競技テーマを基に情報収集や社会背景の調査分析からコンセプトを導き出すためのロジックを組み立てることができる。 	○		○	6
	プレゼンテーション 講評	<ul style="list-style-type: none"> テーマやコンセプトについて、わかりやすい伝達表現方法を習得する。 お互いの作品を検討し合い、様々な伝達表現について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> コンセプトに基づき具体的なデザイン提案ができる。 設計競技規定に添った表現方法で、効果的に提案をプレゼンテーションできるような素材を製作する。 設計競技規定に則った素材が準備できているか。 		○	○	8
2 学期	デザインコンペ参加 B	<ul style="list-style-type: none"> テーマにもとづき問題点を探りコンセプトを立案する。 コンセプトにもとづきデザインによる問題解決方法を探る。 具体的なデザイン提案を作成する。 コンセプトの重要性を知り、デザインをブラッシュアップする。 効果的な提案方法を見つけ、デザイン素材を製作する。 プレゼンテーションツールを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 設計競技締め切りから逆算したスケジュールを設定し今後の行動指針とできる。 設計競技テーマを基に情報収集や社会背景の調査分析からコンセプトを導き出すためのロジックを組み立てることができる。 	○		○	7
	プレゼンテーション 講評	<ul style="list-style-type: none"> テーマやコンセプトについて、わかりやすい伝達表現方法を習得する。 お互いの作品を検討し合い、様々な伝達表現について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> コンセプトに基づき具体的なデザイン提案ができる。 設計競技規定に添った表現方法で、効果的に提案をプレゼンテーションできるような素材を製作する。 設計競技規定に則った素材が準備できているか。 		○	○	8
	プレゼンテーション 講評	<ul style="list-style-type: none"> テーマやコンセプトについて、わかりやすい伝達表現方法を習得する。 お互いの作品を検討し合い、様々な伝達表現について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 多角的な視点で互いの作品を評価し伝達できる。 コンセプトに至るロジックや提案に説得力があるか、理解を得ようとする姿勢がある発表か 質疑応答に対する態度に敬意があるか プレゼンテーション資料の充実度 	○	○	○	7
3 学期	インテリアにおける プレゼンテーション演習 講評	<ul style="list-style-type: none"> インテリアデザインに関する理解をもとに演習を行なう。 テーマやコンセプトについて、わかりやすい伝達表現方法を習得する。 お互いの作品を検討し合い、様々な伝達表現について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> テーマを基に情報収集や社会背景の調査分析からコンセプトを導き出すためのロジックを組み立てることができる。 	○		○	6
			<ul style="list-style-type: none"> コンセプトに基づき具体的なデザイン提案ができる。 			○	8
			<ul style="list-style-type: none"> 効果的に提案をプレゼンテーションできるような素材を製作できる。 	○	○		6
			<ul style="list-style-type: none"> 多角的な視点で互いの作品を評価し伝達できる。 コンセプトに至るロジックや提案に説得力があるか、理解を得ようとする姿勢がある発表か 	○	○	○	合計 78

